

青森県 ICT活用工事アンケート集計結果&推進方針

～特A級企業全143社（回答率100%）の実態調査に基づく効果・課題と支援策～

1. ICT活用工事の顕著な導入効果（令和7年度に施工した企業 65社の実態）

生産性の向上

86.2% が実感

- ・ 26.2%が「30%以上」の飛躍的向上
- ・ 土工、舗装工での施工効率が大幅改善

コストの削減

70.8% が実感

- ・ 24.6%が「20%以上」の削減達成
- ・ トータル施工コストの抑制に直結

作業時間の短縮

80.0% が実感

- ・ 起工測量、出来形管理が1/3以下に
- ・ 従来10日の工程が3～4日に縮小

【潜在能力】令和7年度未施工の企業78社のうち 64.1%（50社）は「施工可能」
令和7年度施工企業65社と合わせると、特A級企業の8割にあたる【115社】でICT施工が可能
適切な支援と施工機会の確保により、急拡大が期待できる

2. 施工できない企業（28社）の課題とボトルネック分析

■ 施工できない一番の理由

1. 詳しい人材がない → 39.3%（11社）
（★最大の障壁・人材不足）
2. 受注工事の規模が小さい → 21.4%（6社）
（小規模工事対応が必須）
3. 費用がかかりすぎる → 14.3%（4社）
（初期投資の負担感）
4. よく分からない → 10.7%（3社）
（情報不足・心理的障壁）

■ 最もハードルが高い項目

1. 「よく分からない」 → 35.7%（10社）
（★知識・理解不足が最多）
2. 3次元起工測量 → 14.3%（4社）
（機器・測量ノウハウ不足）
3. 3次元設計データ作成 → 14.3%（4社）
（機器・専門知識不足）
4. 3次元建設機械施工 → 14.3%（4社）
（機械導入・運用コスト）

3. 企業増加に向けた具体的な支援策と推進戦略

① 「導入型ICT活用工事」の全面的な展開（参入障壁の劇的低下）

- ・ 施工できない企業の【66.7%（3分の2）】が「導入型なら施工してみたい」との意向を示す
- ・ 小規模工事向けに3D設計データ作成を不要とし、2DマシンガイダンスやTS単点計測を活用可能にし、手軽に着手できる環境を提示

② 「人材不足」「よく分からない」を解消する伴走型指導・研修体制

- ・ 多様な分野の人材や資機材を活用した座学・実技研修を受注者・発注者双方に展開
- ・ 技術指導員による現場伴走支援を実施し、3Dデータ作成や機械操作に関する不安を直接解消

③ 段階的な発注標準化とインセンティブ（総合評価加点等）の拡充

- ・ DXロードマップ（R10年度目標）に沿い、土工・舗装工の発注指定型・受注者希望型を計画的に拡大
- ・ 小規模工事でも総合評価落札方式で有利となる評価基準を整備し、施工意欲を強く後押し【対応済】